



明治三十五年自から起ちて此地方の探検に従がひ、明治四十年に至りては更に橋、野村の二氏を派して、蒙古新疆の遺跡を探らしめ、得る所頗ぶる多く、今また第三回の探検に従事せしめつゝあり。其状況は既に屢々傳へらるゝ所なれば、今新に記することなかるべし。余は今伯爵の藏せらるゝ此地方の重なる史料について試みに研究を施し、以て漠然たる此地方の歴史を明かにするの助に供せんとす。非才敢て此貴重なる史料を解説す。誤謬淺見は深く自ら恐るゝところ。幸に識者の教を待つもの切なり。

今先づ一々の史料について攷究し、終りに之を一括して此地方の文化を論述するを以て順序とすべし。

第一 西域長史李柏に関する文書

此文書は一見何人にも解し得るが如く、西域長史關内侯李柏なる人より、某王に致せる消息にして、他にも殆んど同様の意味のもの一葉及び、同様のものと明かに思はるゝものゝ断片數葉發見せられ、而して所々に書損等の存するよりして見れば、其書信の